

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成28年2月4日(2016.2.4)

【公開番号】特開2014-135008(P2014-135008A)

【公開日】平成26年7月24日(2014.7.24)

【年通号数】公開・登録公報2014-039

【出願番号】特願2013-3510(P2013-3510)

【国際特許分類】

G 0 8 B 5/38 (2006.01)

G 0 8 B 17/00 (2006.01)

【F I】

G 0 8 B 5/38

G 0 8 B 17/00 F

【手続補正書】

【提出日】平成27年12月9日(2015.12.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

火災発生時に火災信号を送出する火災受信機と、前記火災信号に基づいて共通の所定周期でフラッシュ発光する発光手段を有する複数の警報装置と、を具備する警報システムにおいて、

前記警報装置は、

前記火災信号を受信してから計時を開始して前記所定周期で初期化される同期タイマと、該同期タイマの計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、

複数の避難経路毎にグループ編成され、前記火災信号を受信したグループに属する前記警報装置は、同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返す

ことを特徴とする警報システム。

【請求項2】

前記火災受信機と前記警報装置との間に介在して、前記所定周期の整数倍の周期で同期補正信号を前記警報装置に送出する同期補正手段をさらに備え、

前記同期補正信号を受信した前記警報装置は、少なくとも前記グループ毎に同期タイマの脱調を補正することを特徴とする請求項1に記載の警報システム。

【請求項3】

火災発生時に火災信号を送出する火災受信機と、前記火災信号に基づいて所定周期の同期信号を送出する同期手段と、前記同期信号に基づいて前記所定周期でフラッシュ発光する発光手段を有する複数の警報装置と、を具備する警報システムにおいて、

前記警報装置は、

前記同期信号を受信すると初期値から計時を開始して所定の遅延時間の後に前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段を有し、

複数の避難経路毎にグループ編成され、前記同期信号を受信したグループに属する前記警報装置は、前記同期信号と異なる同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返すことを特徴とする警報システム。

【請求項4】

火災受信機からの火災信号に基づいて所定期でフラッシュ発光する発光手段を有する警報装置において、

前記警報装置は、

前記火災信号を受信してから計時を開始して前記所定期で初期化される同期タイマと、該同期タイマの計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、

複数が避難経路毎にグループ編成され、前記火災信号を受信したグループに属する前記警報装置は、同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返す

ことを特徴とする警報装置。

【請求項 5】

所定期の同期信号に基づいて前記所定期でフラッシュ発光する発光手段を有する警報装置において、

前記警報装置は、

前記同期信号を受信すると初期値から計時を開始する遅延手段と、該遅延手段の計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、

複数が避難経路毎にグループ編成され、前記同期信号を受信したグループに属する前記警報装置は、前記同期信号と異なる同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返す

ことを特徴とする警報装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(1) この発明の警報システムは、火災発生時に火災信号を送出する火災受信機と、前記火災信号に基づいて共通の所定期でフラッシュ発光する発光手段を有する複数の警報装置と、を具備する警報システムにおいて、前記警報装置は、前記火災信号を受信してから計時を開始して前記所定期で初期化される同期タイマと、該同期タイマの計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、複数が避難経路毎にグループ編成され、前記火災信号を受信したグループに属する前記警報装置は、同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返すことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(2) また、この発明の警報システムは、(1)において、前記火災受信機と前記警報装置との間に介在して、前記所定期の整数倍の周期で同期補正信号を前記警報装置に送出する同期補正手段をさらに備え、前記同期補正信号を受信した前記警報装置は、少なくとも前記グループ毎に同期タイマの脱調を補正することを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 1 0 】

( 3 ) また、この発明の警報システムは、火災発生時に火災信号を送出する火災受信機と、前記火災信号に基づいて所定周期の同期信号を送出する同期手段と、前記同期信号に基づいて前記所定周期でフラッシュ発光する発光手段を有する複数の警報装置と、を具備する警報システムにおいて、前記警報装置は、前記同期信号を受信すると初期値から計時を開始して所定の遅延時間の後に前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段を有し、複数の避難経路毎にグループ編成され、前記同期信号を受信したグループに属する前記警報装置は、前記同期信号と異なる同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返すことを特徴とする。

## 【 手続補正 5 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 1

【 補正方法 】 削除

【 補正の内容 】

## 【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

## 【 0 0 1 2 】

( 4 ) また、この発明の警報装置は、火災受信機からの火災信号に基づいて所定周期でフラッシュ発光する発光手段を有する警報装置において、前記警報装置は、前記火災信号を受信してから計時を開始して前記所定周期で初期化される同期タイマと、該同期タイマの計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、複数の避難経路毎にグループ編成され、前記火災信号を受信したグループに属する前記警報装置は、同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返すことを特徴とする。

## 【 手続補正 7 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

## 【 0 0 1 3 】

( 5 ) また、この発明の警報装置は、所定周期の同期信号に基づいて前記所定周期でフラッシュ発光する発光手段を有する警報装置において、前記警報装置は、前記同期信号を受信すると初期値から計時を開始する遅延手段と、該遅延手段の計時値が初期値と異なる所定値となったときに前記発光手段をフラッシュ発光させる発光制御手段と、を有し、複数の避難経路毎にグループ編成され、前記同期信号を受信したグループに属する前記警報装置は、前記同期信号と異なる同じタイミングでフラッシュ発光を繰り返すことを特徴とする。

## 【 手続補正 8 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

## 【 0 0 1 4 】

複数の警報装置が同期して同じタイミングでフラッシュ発光し、バラバラのタイミング

でフラッシュ発光しないので、光過敏性発作を引き起こすことなく、聴覚障害がある人にも火災発生を知らせて避難を促すことができるという効果を奏する。また、フラッシュ発光に伴う電源変動が発生しても、誤ってフラッシュ発光させないという効果を奏する。